

医学科看護学科合同科目「次世代医療人育成論」を開講しました

本科目は、医学科1年生と看護学科1年生を対象とした医看合同科目であり、良き医療人育成プログラムの一つに位置づけられています。

1年次から医師や看護師により深く求められる教養「プロフェッショナルリズム」を認識することを目的に、「知的生産技術」、「コミュニケーション」及び「人権教育」の3つをテーマに授業を実施しました。

「知的生産技術」では、特にチーム医療を担う医療人として求められる批判的思考力（クリティカル・シンキング）について、演習を通じて、体験的にその重要性や必要性を自ら気づく授業を行いました。

次に、「コミュニケーション」では、医療人として必要な他者との協働関係を結ぶためのコミュニケーション力を、理論から実践方法まで段階的に学べるように授業を配置し、実践的な授業を行いました。また、医療者と患者コミュニケーションの基本姿勢と視点を身につけることを目的として、障がいを持った患者さんから直接話を聞きました。

「人権教育」では、奈良県が実施している男女共同参画推進のための取り組みや障がい者・性的マイノリティ者に対する偏見や差別、人権侵害をなくし、共に生きる社会人を実現する態度を学びました。さらに、人権教育に関してグローバルな視点でのテーマや内容を取り上げ

るため、今年度から新たに JICA（国際協力機構）関西に依頼し、「発展途上国のジェンダー・人権について」をテーマに授業を実施しました。講師からは途上国の状況や課題等について、実際に現地での経験も踏まえて講義いただき、大変貴重な機会となりました。

最終日には、4日間の授業を通じて得たことを「コミュニケーション能力」と「共生社会」の2つをテーマにグループワークを行い、その成果を発表しました。学生の質疑応答だけでなく、司会を務めた先生からも実体験を基にコメントをいただき、活発な発表会となりました。発表会後は、各班が投票を行い、最優秀班に表彰を行いました。

5日間の授業を終えた学生の感想には、「医療者の言葉の使い方や話し方が、患者の心を開くことを学んだ」、「医療は1人で行うものではなく、チームで行う必要があるため、コミュニケーション能力を養う必要がある」、「医療者と患者という関係性ではなく、ひとりの人と人として患者と向き合いたい」、「たくさんの人とグループワークをして、コミュニケーションをとることができ、将来のキャリアに活かせる授業だった」等があり、医師・看護師を目指す学生にとって、有意義な時間となりました。



発表会の最優秀班